

■大江礒吉 成績抜群で小学校教員になるも、被差別部落出身のため様々な差別に遭い、島崎藤村「破戒」のモデルに。

おおえいそきち

- 明治維新・・・1868＝ 長野県下伊那郡伊賀良村下殿岡四六番地(飯田市)で、大江周八・志のの次男に生まれる。礒吉。  
被差別民として貧困の極のなか、  
初の日刊新聞1870＝ 2歳：弟猪吉が誕生。  
幼少から利発で、近所の人々から愛されて育ち、  
学問のすすめ1872＝ 4歳：この年、学制が施行されると、両親から将来を嘱望され、  
隣家の開業医矢澤庄次郎の支援を得て、  
佐賀の乱・・・1874＝ 6歳：下伊那郡殿岡小学校(後に知止小学校)下等小学科に入学。

西南戦争・・・1877＝ 9歳：

- 大久保暗殺・・・1878＝10歳：卒業し、下伊那郡飯田小学校上等科に入学。  
琉球処分・・・1879＝11歳：弟猪吉が死去。この年、異母兄虎之助がきんと結婚  
・・・・・・・1880＝12歳：この年、姪なを江が誕生  
明治14年政変1881＝13歳：この年、異母兄虎之助出奔し、きんを離縁。「日本政記」を受賞して卒業。飯田小学校助教諭心得となる。  
新体詩抄・・・1882＝14歳：誹謗中傷によって飯田小学校を放逐されるが、矢澤の励ましで、開設された郡立下伊那中学校に入学。  
岩倉具視没・・・1883＝15歳：祖父仙蔵が死去。  
秩父事件・・・1884＝16歳：英語教師で赴任してきた武信由太郎に出会って、強い衝撃を受け、一校制で県立飯田中学校に編入後、  
内閣発足・・・1885＝17歳：初等中等科を首席で卒業し、地域を代表する人材として、長野県立尋常師範学校に入学。母志が離籍され、  
継母つねが入籍後、父周八が死去したため、小平家と養子縁組。成績優秀につき給費生となり、  
帝国大学始・・・1886＝18歳：\*2番で卒業。諏訪郡平野小学校四等訓導となるも、素性を問題に排斥され、県立尋常師範学校校長浅岡一の配慮で、同校に出仕し、小学生徒試験委員などで様子を見た後、  
国民之友始・・・1887＝19歳：長野県立尋常師範学校訓導として教壇に復帰。授業ノートのためにと、市東謙吉に速記法を師事。  
初の対等条約1888＝20歳：高等師範学校文学科にトップで入学。  
帝国憲法発布1889＝21歳：小平家と離籍手続し、  
帝国議会始・・・1890＝22歳：大江家に復籍。  
足尾鉍毒始・・・1891＝23歳：首席で卒業。奏任官として、高級の長野県立尋常師範学校教諭となる。小学校教員学力検定試験委員、  
大本教・・・1892＝24歳：同乙種検定試験委員。付属小学校主事に抜擢されるが、またも、放逐運動が起こり、  
郡司千島探検1893＝25歳：\*つまと結婚後、大阪府へ出向すると、礒吉と改名、実力を発揮して大きく変貌。大阪府尋常師範学校教諭。小学校教育定期乙種検定委員。またしても起きた排斥運動には毅然と対応、論文「自由と抑制」を残し、

日清戦争始・・・1894＝26歳：

- 日清戦争終・・・1895＝27歳：先輩の鳥取県立尋常師範学校校長小早川潔の招きに応じて、自らの出自明かす決意秘めて同校に赴任。付属小学校主事、小学校教員詮衡委員。小学校教員講習会講師として米子へ出張。常設小学校教員検定委員。  
白馬会・・・1896＝28歳：小学校教員講習会講師として倉吉へ出張。小学校教員検定試験検定委員として米子へ出張。自らが家督相続しないままであったため、姪なを江を同郷の息子と養子縁組させ、家督も相続させる。  
八幡製鉄始・・・1897＝29歳：鳥取県尋常師範学校舎監を兼任。私立鳥取県教育会幹事として機関誌(山陰之教育)編集し評論を発表。  
子規句歌革新1898＝30歳：講習会講師として米子へ出張。  
Bushidou・・・1899＝31歳：職務特別勉勵につき、金十円を支給される。  
ピアノ国産化・・・1900＝32歳：小学校規則調査委員嘱託。\*職務特別勉勵につき、金十五円を支給される。小学校教員検定常任委員。正八位に叙されるも、騒動を処理する理由で、突然休職命令を受け、長野に帰郷するうち、なお惜しまれて、  
田中正造直訴1901＝33歳：兵庫県柏原中学校長に採用され、従七位。年俸千円。県立に移管後も、真剣に教育実践に励むが、  
教科書疑獄・・・1902＝34歳：\*柏原中学校第一回卒業証書授与式がボイコット寸前に至り、ついに燃えつきたのか、県立学校長会で神戸へ、全国中学校校長会で東京へ出張などするうち、盲腸周囲炎兼腸管狭窄症で危篤となり、学友会発会式後、腸チフスで、没した。正七位追叙。直後に、母も死去する。